

タデ原湿原は、木道が整備され、秋の景色を眺めながらの散策に最適。湿原から続く森林のコースは、コシアブラやミズナラ、コハウチワカエデなどの色とりどりの紅葉が気軽に楽しめます。【長者原ビジターセンターからすぐ】

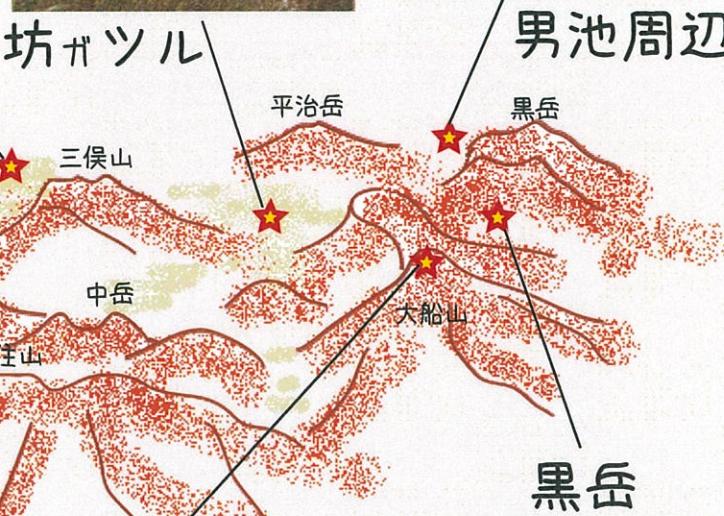


10月～11月の坊ガツルは一面のスキ野原。風になびく草原の奥に、大船山がそびえています。【長者原登山口から徒歩2時間(片道)】

駐車場から男池を通ってかくし水方面へ向かうと、コハウチワカエデやチドリノキなどの紅葉が圧巻! 紅葉のトンネルの中を歩けます。【男池駐車場から徒歩10分、清掃協力金100円が必要】



タデ原湿原



星生山
星生山の西面の紅葉は西日を受ける午後がおすすめ。ドウダンツツジ類などが燃えるような赤に染まります。沓掛山や扇ヶ鼻の手前から眺められます。【牧ノ戸峠登山口から徒歩40～70分(片道)】



沓掛山を過ぎて左手、扇ヶ鼻との間の通称「ナベ谷」は、カエデ類の見事な紅葉が見下ろせます。扇ヶ鼻から見る肥前ケ城もおすすめ。【牧ノ戸峠登山口から徒歩30～90分(片道)】

大船山頂の火口湖「御池(おいけ)」の周りは、ドウダンツツジ類、コニネカエデなどが色づき、まるで日本庭園のようです。くじゅう連山で一番早く紅葉が見ごろを迎えるエリアもあります。【長者原登山口から徒歩4～5時間、大船山登山バス終点から2～2.5時間(いずれも片道)】

ここもおすすめ!
三俣山大鍋、小鍋を周回するお鉢巡りコースは上級者向き。
経験者の同行の上で、迷ったら引き返す計画を立てよう!

ここもおすすめ!
吉部登山口から入る「暮雨の滝」は徒歩で約1時間。紅葉と滝のコントラストが絶品です。途中急坂もあるので気をつけて!

右の①は「コハウチワカエデ(小羽団扇楓)」真っ赤に色づくうちわ型のかわいらしさの葉が特徴的です。②は「イタヤカエデ(板屋楓)」葉のヘリは波打つことはあってものこぎりのようなギザギザが多いことが特徴です。黄色っぽい紅葉が多いですね。



右の①は「コハウチワカエデ(小羽団扇楓)」真っ赤に色づくうちわ型のかわいらしさの葉が特徴的です。②は「イタヤカエデ(板屋楓)」葉のヘリは波打つことはあってものこぎりのようなギザギザが多いですね。



左の⑤は「チドリノキ(千鳥の木)」一見カエデには見えない形ですが、葉が対生する(向かい合つてつく)ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ(瓜肌楓)」その名の通り尾根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。

左の⑤は「チドリノキ(千鳥の木)」一見カエデには見えない形ですが、葉が対生する(向かい合つてつく)ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ(瓜肌楓)」その名の通り尾根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。

左の⑤は「チドリノキ(千鳥の木)」一見カエデには見えない形ですが、葉が対生する(向かい合つてつく)ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ(瓜肌楓)」その名の通り尾根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。

左の⑤は「チドリノキ(千鳥の木)」一見カエデには見えない形ですが、葉が対生する(向かい合つてつく)ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ(瓜肌楓)」その名の通り尾根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。

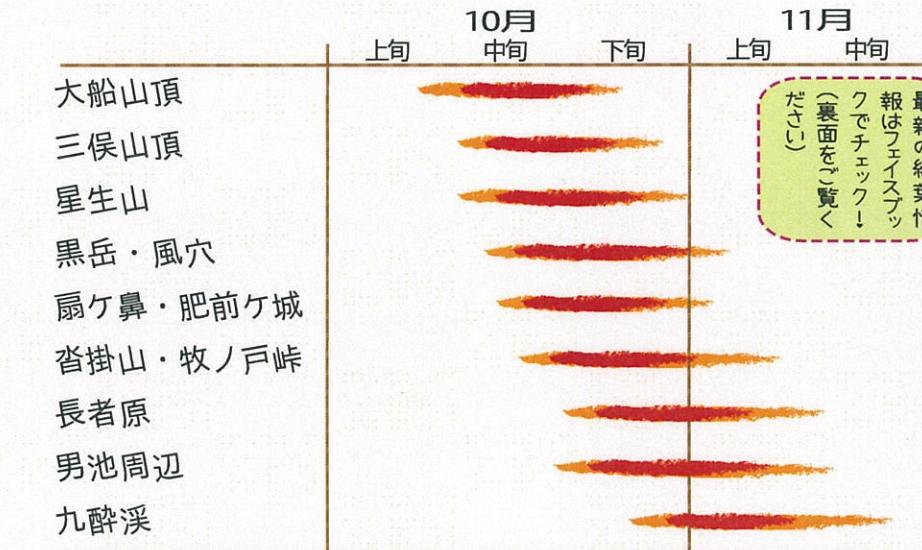
くじゅうの紅葉おすすめスポット!

くじゅうの紅葉を100%楽しもう!

くじゅうがいちばん賑わうのは、初夏のミヤマクリシマの時期と秋の紅葉の時期。多くは標高が高いところから始まります。くじゅう連山は東の主峰大船山(1786m)から裾野の男池(800mほど)まで標高差1000mに及ぶ範囲に紅葉の見どころがあります。そのため、紅葉の見どころの時期も、山頂部の「月中旬」から、山麓の「十一月上旬」まで、長い期間続くんです。

くじゅうの紅葉のスタートは、絶景の火口湖「御池(おいけ)」を擁する大船山頂部から。例年だと十月なかばごろに見ごろを迎えます。そして、段原(だんぱる)、三俣山山頂部、黒岳などが続き、沓掛(くつかけ)山や風穴のあたりでは十月下旬。さらに長者原や男池の周辺では十一月上旬まで楽しめます。このころは、山すその広大な草原でゆれるススキの穂が銀色に輝く時期でもあります。そして十一月なかばには、登山道にはやくも霧氷や初雪の便りが届きます。

おおよその時期はこんな感じとはいって、年によって一週間程度は時期がずれるのもやはり紅葉の特徴。また、色つき始めの淡い雰囲気もよければ、登山道に散つて足元を染め上げる落ち葉もまたすばらしいものです。「十月なかばから一ヶ月の間なら、どこに行けば必ず紅葉が楽しめる!」と思うと、ワクワクしますね。ことしは山に登りますか? ふもとの森や草原を散策しますか?



ぱらりいものです。「十月なかばから一ヶ月の間なら、どこに行けば必ず紅葉が楽しめる!」と思うと、ワクワクしますね。ことしは山に登りますか? ふもとの森や草原を散策しますか?

くじゅうならではの紅葉といえば「もみじ」の木。これは、コシロドウダンツツジ科のカエデのなかです。くじゅうでは、コミネカエデ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、チドリノキなどが、黄色や赤などそれぞれ独特の色合いで山を染めます。山頂付近からふもとまでひろく分布しますが、特に男池の周辺や黒岳でたくさん種類が見られます。

くじゅうならではの紅葉といえばドウダンツツジのなか。シロドウダン、ベニドウダン、ツクシドウダンなど、オレンジから赤に山肌を彩ります。大船木と書くくらい、秋の美しさは定評があり、ツルウメモドキ、ツリバナなど花も実も風情があります。山中の開けた場所に点在するマユミは、十一月にかけてピンク～赤の実がとても目立ちます。



左の⑤は「チドリノキ(千鳥の木)」一見カエデには見えない形ですが、葉が対生する(向かい合つてつく)ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ(瓜肌楓)」その名の通り尾根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。



くじゅうできれいな紅葉を見せるのは、何の木でしょうか?

紅葉と言えばまず思い浮かぶのは「もみじ」の木。これは、コシロドウダンツツジ科のカエデのなかです。くじゅうでは、コミネカエデ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、チドリノキなどが、黄色や赤などそれぞれ独特の色合いで山を染めます。山頂付近からふもとまでひろく分布しますが、特に男池の周辺や黒岳でたくさん種類が見られます。

